

「みどり認定」で勢い

【三重・伊勢】伊勢農協鳥羽志摩特別栽培米コシヒカリ部会が、「みどり認定」を受けた。JA伊勢の生産部会が、この認定を受けるのは初めて。同部会では、土壌分析に基づいた堆肥施用による土づくりを継続し、化学肥料や化学農薬の使用を低減した持続可能な農業を推進していく。

三重・伊勢農協鳥羽志摩コシヒカリ部会

みどり認定は、2022年に施行された「みどりの食料システム法」に基づく制度だ。環境負荷の低減と持続可能な農業に取り組む農業者を認定して、取り組みを後押しするもの。

土壌分析から堆肥施用、減農薬も



認定証を手にする前田部会長

「ブランド米『珠光』に誇り」

同部会は、農水省が定めた特別栽培ガイドラインに沿って06年から、独自ブランド米「珠光（たまひかり）」を手がけている。25年からの1人を含む13人が環境に配慮した生産に取り組んでいる。

栽培では、地元産の堆肥の施用と有機質肥料を活用し、化学肥料（窒素成分）を、県の慣行基準より50%削減している。節減対象農薬も50%以下に抑える。安全性にこだわって栽培した「珠光」は、志摩市の優れた地域資源を認定する「志摩ブランド」として認められている。

認定を受けて前田俊基部会長は「人にも環境にも優しい栽培に取り組んでいることが認められた。今後も地域を代表するブランド米としての誇りを持って栽培に取り組んでいきたい」と話した。